

1970年の万博を振り返る

1970年に大阪で開催された日本万国博覧会は「**人類の進歩と調和**」をテーマに掲げ、77カ国が参加し、戦後高度経済成長を成し遂げ、アメリカに次ぐ経済大国となった日本の象徴的な意義を持つイベントとして開催されました。

大阪市など会場周辺市街地では万博開催への整備がなされ、道路や鉄道・地下鉄建設など大規模開発が進められるなど、**大阪経済が大きく成長する契機**となりました。



人類の進歩と調和

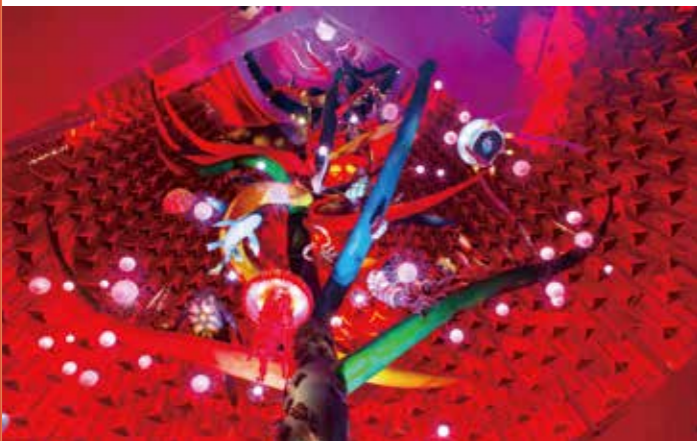


名称	日本万国博覧会 (Japan World Exposition, Osaka 1970)
テーマ	「人類の進歩と調和」 (Progress and Harmony for Mankind)
開催期間	1970年3月15日～9月13日 (183日間)
入場者数	6421万8770人 (1日入場者数 最高83万5832人)
参加国数	77カ国 4国際機関
落し物金銭	4,780万円
迷子	22万643人 (親と子どもの数)
売上金額	入場券：約350億円 食堂・売店：約405億円

万博会場の各国のパビリオンでは特にアポロ12号が持ち帰った「月の石」を展示したアメリカ館などの人気パビリオン。アポロ月着陸船の実物の展示や、月の石の展示には、4時間以上の待ちの行列ができるほどの活況を呈し、大阪万博の最終的な総入場者数は当時、**万博史上最多となる約6421万人**となりました。この記録は2010年中国・上海で開かれた上海万博に抜かれるまでの40年間抜かれることはありませんでした。



アポロ12号が持ち帰った「月の石」



太陽の塔の内部の展示空間には、生命の誕生から人類に至るまでの生命の進化の過程をあらわした鉄鋼製の高さ約41メートルの「**生命の樹**」があります。

現在、太陽の塔内部再生事業が行われ、塔の耐震工事の実施と併せて、内部も万博当時に展示されていた「**生命の樹の生物群**」や「**海底の太陽**」を復元し、**2018年3月から一般公開**される反響を呼んでいます。

太陽の塔
内部を一般公開

人類の進歩と調和



OSAKA-KANSAI/JAPAN
EXPO2025



World Expo 2025
Candidate

いのち輝く
未来社会のデザイン



万博誘致プレゼン 安倍首相メッセージ動画



大阪、関西の立候補を全面的にサポートすることをお約束します。



万博誘致 PR 活動 (左)多賀谷万博議連委員長 (右)市議員 前田和彦



経済産業省「ビッドシエについて」



国際博覧会推進事務局 発足

万博誘致に向けた取り組み

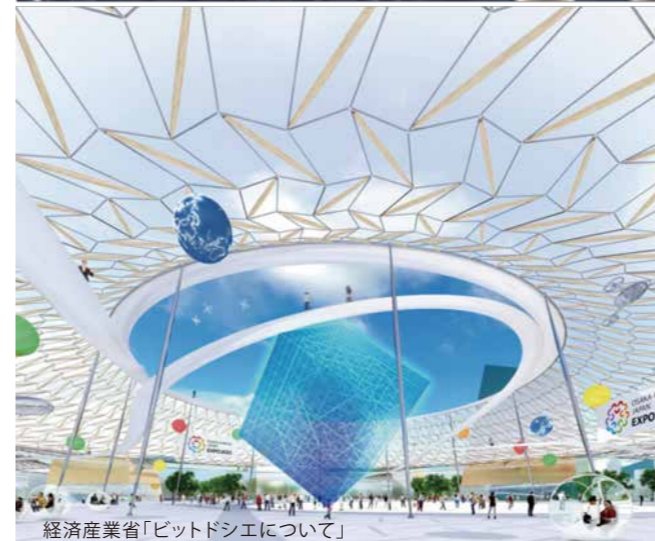
万博は、**国家プロジェクト**として内閣総理大臣が**主導**し、連立与党を中心に超党派の議員連盟が大坂誘致に向けて取り組んでいます。政府与党、各省庁は、これまで築きあげた各国との政府機関、領事館、大使館などの繋がりをもとに、世界中で誘致活動を展開しています。



大阪市内万博誘致推進議連 街頭キャンペーン

大阪市内においても、超党派で万博推進議員連盟を発足させ、大阪万博の誘致の推進に向けて取り組んでいます。

万博誘致の開催国を巡っては現在、日本、ロシア、アゼルバイジャンの3カ国が競っています。いよいよ**今年秋11月23日**にパリで行われる博覧会国際事務局(BIE)総会で、加盟**170カ国**の投票によって**開催地が決定**します。



経済産業省「ビッドシエについて」

いのち輝く 未来社会のデザイン

2025国際博覧会は、「いのち輝く**未来社会のデザイン**」をテーマとして、地球規模の様々な課題がある中で、世界中の人々が自らが望む生き方を考え、持続可能な社会の実現を推進することを目的としています。

万博誘致の実現は、日本にとって**2兆円規模の経済波及効果**が見込まれるほか、大阪においては、世界レベルのライフサイエンスやバイオメディカル分野の先端産業や、関西が誇る文化遺産の発信、観光客の更なる増加、地域経済の活性化が図られることとなります。

>>>>> 万博誘致で、大阪経済を前に進めます！



自由民主党 大阪市内議員 **前田かずひこ**

平成13年 3月 神戸大学 卒業
 平成26年 12月 財務省 退職
 平成27年 4月 大阪市議員 北区選出
 保有資格 不動産鑑定士 行政書士

自民党大阪市内議員団 前副政調会長
 大阪市・税財政制度特別委員会 委員
 教育子ども委員会 副委員長
 空家対策協議会 委員
 自民党総合区プロジェクトチーム 座長

前田かずひこ
オフィシャル WEB サイト

〒530-0041 大阪市内北区天神橋七丁目5番8号
前田かずひこ市政事務所
ご意見・お問い合わせは、maedaoffices@gmail.comまで



会場デザインは、上空から見ると「個と個の繋がり」や「多様性」を象徴する幾何学的なデザインであり、①会場中心には各国のパビリオンを配置した「パビリオンワールド」、②南側水面には水上ホテルや迎賓施設などの「ウォーターワールド」、③西側には広場やアウトドア施設などの「グリーンワールド」が整備される予定です。

万博は150カ国が参加し、日本の大阪で開催された場合、2025年5月3日～11月3日の約半年の期間で開催され、**来場者数は約2800万人**を見込んでいます。万博開催会場は、大阪市内此花区の湾岸エリアに位置する人工島「**夢洲**」の約**150ha**を会場予定地としています。



経済産業省「ビッドシエについて」

万博会場の配置図